

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2012. 1. 26

No. 79

怒られるということ



会社に入ると職場の中で怒られるということが何度かあると思います。最近の若い人はその時かっとなり一方的に相手を非難し、すぐに会社を辞めたりしがちです。しかし**怒られるということはそれなりの原因があるはず**です。もっとも理不尽に怒られることもないわけではありません。しかし、人はそうむやみに怒りをあらわにするものではありません。

自分で起こした**原因に目がかず、自己正当化し怒った相手を「けしからん」と非難する前に、素直に自分に振り返る姿勢が欲しい**ものです。特に若い時はそうした姿勢が大切です。怒られてすぐカッとなる前に、「相手はなぜ怒ったのか、自分の落ち度は何か」を振り返ることが出来なければ社会で通用しません。**自分に非があると思ったら素直に、謝ったり反省すること**でしょう。怒った相手もいつまでもそのことを根に持っているわけではないでしょう。素直に反省する姿勢が見えれば、それ以上ことはこじれないでしょう。

とかく今の世の中は怒られても、それを素直に振り返らず、かえって非のあるものの方が憤りをあらわにし、世の中の道理が曲げられがちです。そんなことがまかり通る世の中になれば世も末です。



石の上にも三年 会社は安易に辞めないこと

毎年4月末頃から、前年度に生徒が就職した会社訪問をすると、「もう会社を辞めた」という話を聞きます。新卒者の退社割合として七五三という話があります。中卒で3年以内に会社を辞めるのが7割。高卒で5割、大卒で3割ということのようです。この不景気の時代ですから最近はそのほど多くないと思いますが、少なからぬ者が中途退職していることは事実です。

もとよりこの**就職難の時代に一度会社を辞めてしまうと、次の会社がなかなか見つかりません**。就職時選択肢が少なかった分自分の希望する会社に入れなかったという人も多いと思いますが、ちょっとしたことで我慢が出来ずやめたり、もっといいところがあると思って辞めても現実にはそれほど大差はないはずです。どこの会社も苦しいし、どこの会社に移ってもそれぞれ色々な問題を抱えているものです。

昔から「石の上にも三年」という言葉がありますが、**せめて3年くらいないと仕事の全体が見えず仕事の面白さも分からない**ものです。明らかに転職によりスキルアップに繋がればよいのですが、単純に我慢が出来ないから会社を変わるというのは、今の世の中ではリスクが大きいでしょう。もう少しあの会社で我慢すれば良かったと思っても後の祭りです。

また安易に会社を辞めると、次の年から本校から採用してもらえないということが最近増えています。**後輩に負の遺産を残さないで欲しい**ものです。

若い時は後先考えず行動しがちですが、会社を辞めるか否かはくれぐれも慎重な判断をして欲しいものです。我慢できるものならば出来るだけ我慢し会社は安易にやめないように心がけましょう。

そいつは正社員様ですからね。バイトや派遣とは違うわけですよ。年金や保険は会社が払ってくれる。こっちはどうあがいたってバイトのまんま。いくら仕事が出来ようが、実質店を切り盛りしているのがおれらバイトだろうが、正社員飛び越えて、昇級も昇格も特進することなんかありえねえ。入り口間違えると、一生負け組から抜け出せねえんだって、そのときはっきり分かりましたよ。<中略>所詮バイトや派遣じゃダメなんですよ。使い捨てだし。こんなんじゃ家も建たなきゃ、結婚も出来ねえ。やっぱり正社員しかない。

黒野伸一 「限界集落株式会社」